



黒山の熊野神社

村名の由来は、「當所の内に古へ深淵ありて、其所に年久しく龍ひそみけるを、龍穩寺第五世の僧雲岳が祈誓によりて、かの龍升天し、其迹變遷して尋常の平地となりしかば、農民等そこを新開せし地なるにより、此名起れり」(『新編武蔵風土記稿』)と記されています。江戸時代、村は龍穩寺領でした。室町時代に著された『龍穩寺縁起』に



城山 (2013年撮影)



大菅の地蔵尊 (右から2番目: 寛永元年 (1624) 建立)



大御堂 (最勝寺境内)

黒山村 (大字黒山)
村のほぼ中央に位置する熊野神社は、棟札によれば室町時代の応永5年(1398)に郷内安全と氏子繁栄を願って創建された神社です。願主の栄門は平将門の末裔と伝えられる山伏で、「山本坊」を開き、黒山一帯を紀州熊野霊場に見立てた修験道(山岳信仰)の霊場として整備しました。

龍ヶ谷村 (大字龍ヶ谷)
村名の由来は、「當所の内に古へ深淵ありて、其所に年久しく龍ひそみけるを、龍穩寺第五世の僧雲岳が祈誓によりて、かの龍升天し、其迹變遷して尋常の平地となりしかば、農民等そこを新開せし地なるにより、此名起れり」(『新編武蔵風土記稿』)と記されています。江戸時代、村は龍穩寺領でした。室町時代に著された『龍穩寺縁起』に

は、龍穩寺五代雲岡和尚が深淵に住む悪龍を改心させ、その場所に伽藍を建立し山号を長昌と改め、寺を繁栄に導いたと伝えています。麦原との境の尾根伝いには、飯盛峠へと続く、かつての幹線道路「秩父往還」が走っています。越生から秩父夜祭の見物へ向かう人々にも利用されました。

世の山城跡が残っています。築城主は、松山城(吉見町)主の上田朝直が、安土桃山時代の天正年間、慈光寺(ときがわ町)を攻略するために築いたとする説や、越生郷に所領があった吾那憲光が応永年間、築いたとする説があります。麦原は城山の城下集落として形成されたと考えられており、城衆の末裔との伝承をもつ一族も住んでいます。

慈光寺の参詣道として利用されてきました。慈光寺は源頼朝の庇護を受けて繁栄した寺院で、字大菅には慈光寺へ向かう頼朝が置き忘れたという逸話が残る地蔵尊があります。**堂山村 (大字津久根)**
「昔大伽藍の建し地なれば、この名起りし」(『新編武蔵風土記稿』)という村名の由来となったお堂が大御堂です。かつて字堀の内にあり、戦乱で破壊されたのを再興し、最勝寺境内に移したと記されています。最勝寺は頼朝が家臣の児玉雲太夫に命じて建立させたと伝わる寺院で、明治の初めには寺を間借りして堂山学校(梅園小学校の前身)が開設されました。

越生浪漫 No.152

越生は町ごと博物館③



梅園小学校

8月31日、「新型コロナウイルス感染予防講座」を全クラスで行いました。全児童が、新型コロナウイルスに関する動画や冊子を使って、感染を防ぐための知識や行動について学習しました。子供たちは、真剣に動画を見て、感染予防の対策を確認していました。



「今日も園庭に行こうね。」「ドッジボールやろう!」とニコニコと登園する笑顔の子どもたち。越生保育園の合言葉は「笑顔とあいさつ」です。0歳児・2歳児は落ち着いた環境の中、ゆったりと一日が過ごせるように個々に合った保育に取り組んでいます。3歳児以上のクラスでは、生活やあそびの中からたくさんのかたちを体験しています。



越生小学校

夏休みの期間中、校舎内水道の蛇口の付け替え工事が行われました。手をかざすと水が出る自動水栓とレバーを回して水を出す方式の蛇口になりました。猛暑の中、工事を進めていただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。



越生中学校

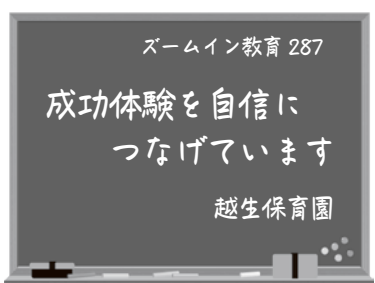
感染症対策を徹底した上で、夏休み明けの学校をスタートしました。生徒たちには、校舎内や教室に入る際の手指消毒と検温、不織布マスクの着用を呼び掛けています。また、職員は生徒下校後の校内の消毒を行っています。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。

あそびからたくさんの事を学んでいます



室内でもホールで縄跳びやボールを使い、身体をたくさん動かしています。体幹やバランス感覚を高められる台は、いろいろな形に繋げることが出来、自分の考えや気持ちを友だちに伝えたり、友だちの言葉に耳を傾けながら協力して完成させています。経験を重ねると、平均台やマットを置いたり、フープや縄跳びを置いてケンパやジグザグに跳んだりするなど友だちと考え、工夫できるようになりました。